

## 地区部会分科会

武、猪野、横山、上川畑、香取、江尻、野村、山谷、尾出、和田文

- |         |   |
|---------|---|
| (委員長)   | これからどう攻めていくかについて考えを聞いていきたい。私は200所帯の自治会長を11年して、部会長を8年している。両方を知っていてまとめた意見である。まとめたものを配付するので、反論意見を出して欲しい。   |
| (横山委員)  | 分科会は計画を周知徹底させるのが仕事であるのか。  |
| (委員長)   | 周知徹底が目的である。社協の現状をまとめたものは配付した。サロン活動などを地区部会はしている。若葉区の21年度の活動実績は6区最低の開催頻度であった。福祉活動推進員も6区の中で最低だった。自治会は小さな単位で考え、地区部会の単位は違う。社協の活動はこうあるべきであるということを理解することからスタートしたい。 |
| (事務局)   | 地区部会の役割がある。活動の仕方はそれぞれの地域で当然違ってきている。地域の中の課題解決は共通している。地域性は違うが、それぞれの課題を解決していく仕組みを作っていきたい。  |
| (委員長)   | 自治会と違って広い範囲で地区部会は活動している。地域差があり課題は違う。農家の中でのたすけあいと都市型のたすけあいは違う。松戸市の孤独死の問題は更科にはない。たすけあい活動は形を変えて必要である。  |
| (横山委員)  | 分科会で具体的に何を討議して進めるか。実施できるかどうかはあるが、知られていない。サロンや障害者バス旅行は限られた人でしている。自治会長まで知らない。   |
| (委員長)   | 地区部会があるから福祉活動をしている。何のためにあるのか。福祉活動推進員は本当に必要であれば増えるはずである。必要性の理解が進んでないから増えない。  |
| (和田文委員) | 分科会作られた目的。分科会はどの方向でいくのか。的をしぼっていくか。  |
| (委員長)   | 問題提起をペーパーでした。まず読んでほしい。もう1枚のペーパーも具体的につっこんでいきたいが、前段階が必要かと思った。自治会と違って理解する時間をつくっていきたい。  |
| (横山委員)  | 9月は分科会ごとに集まるのか  |
| (委員長)   | 8月の運営企画委員会で議論して、9月の分科会で議論したい  |